

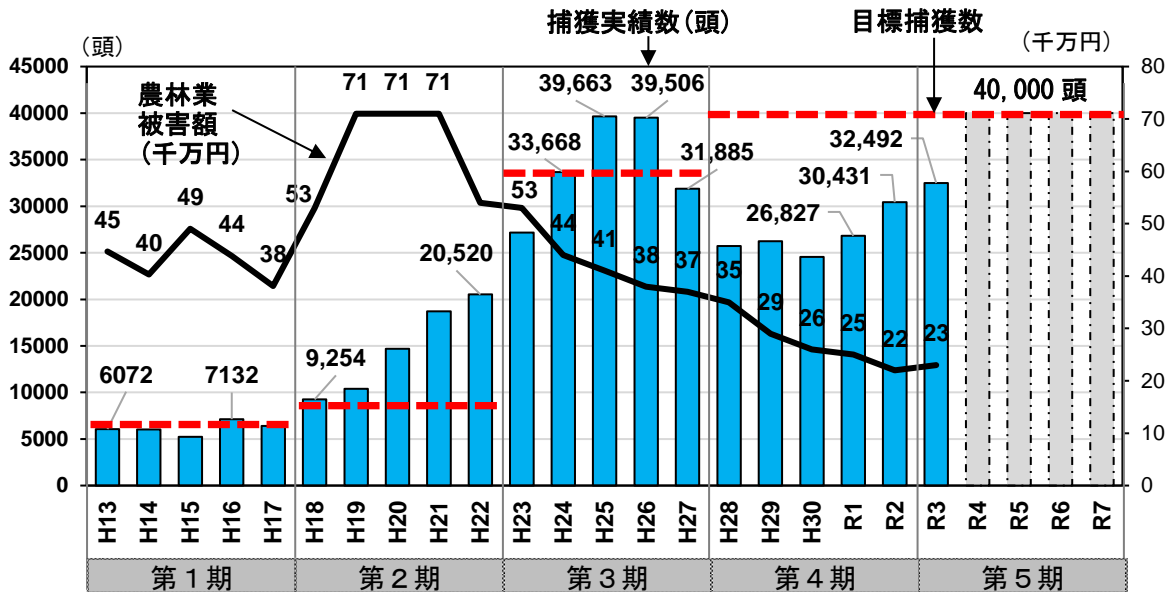
# ニホンジカ対策について

鳥獣対策室

## 1 これまでの経過と第5期ニホンジカ管理計画

### (1) 経過

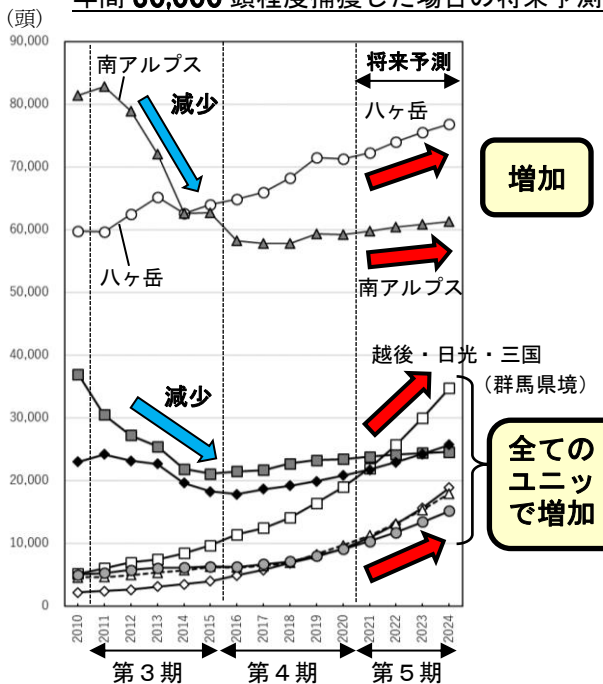
- ・これまでの対策により、農林業被害額は減少しているものの、依然高い水準
- ・高密度生息地域では、シカの採食等により自然植生の衰退が進行
- ・第4期においては、目標捕獲数が未達成



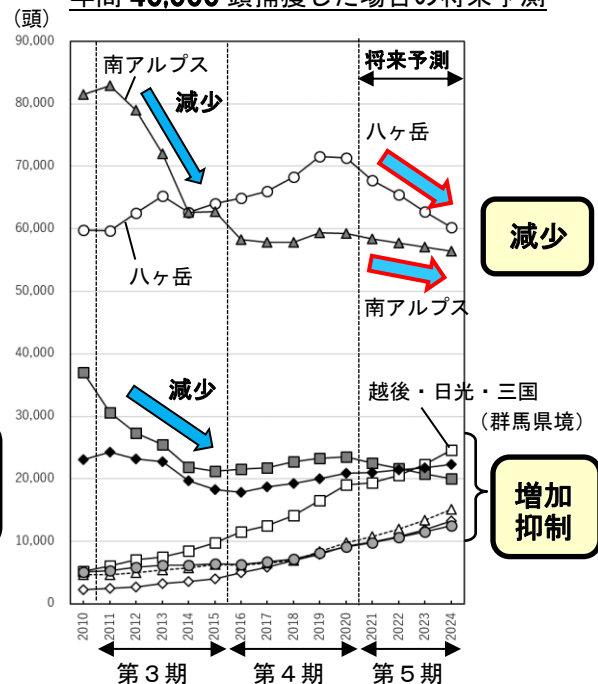
### (2) 生息数の推移と将来予測

- ・年間 30,000 頭程度の捕獲で推移した場合は、将来全てのユニットで生息数が増加すると予測
- ・年間 40,000 頭の捕獲で推移した場合は、将来減少または増加が抑制されると予測

年間 30,000 頭程度捕獲した場合の将来予測



年間 40,000 頭捕獲した場合の将来予測



推定生息数 約 22 万頭  
(令和元年度末 中央値)

## 2 今後の対策

### (1) 対策方針

- 高密度生息地や繁殖地での積極的な捕獲
- 新たな繁殖地をつくらせない（高密度生息地を広げない）

### (2) 主な取組

#### ① 重点捕獲区域の設定

シカの生態や地理的条件に基づき、高密度生息地において重点捕獲区域を設定し、県と市町村が連携して捕獲を推進（関東山地、南アルプス、八ヶ岳管理ユニットの一部）

#### ② 高密度生息地における捕獲の実施

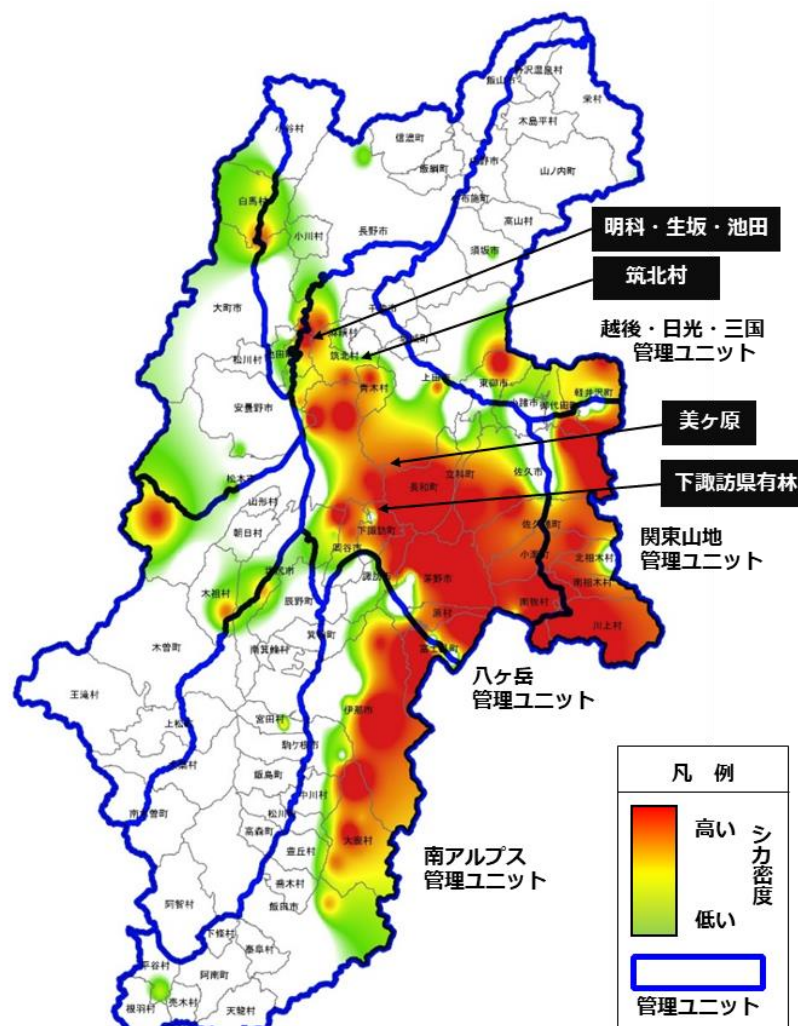
- 下諏訪県有林における ICT 等を活用した捕獲手法の実証（令和3年度～）
- 美ヶ原牧場における捕獲・ジビエ利活用の支援（令和4年度～）

#### ③ 高密度生息地の拡大抑制

- 明科・生坂・池田地域における集中的な捕獲による北アルプス地域へのシカの移動抑制（令和3年度～）
- 群馬県と連携した広域調査捕獲の実証（令和4年度～）

#### ④ ジビエ利用を前提とした捕獲の推進

麻績村におけるジビエカーを活用した捕獲個体の回収・ジビエ利活用への支援（令和3年度～）



# 群馬県と連携した広域調査捕獲の実証

鳥獣対策室

## 1 目的

令和3年度を始期とする第5期ニホンジカ管理計画（R3～R7）策定時に行った県内の生息頭数の推移予想では、今後、群馬県境付近の生息頭数増加が最も懸念されている。

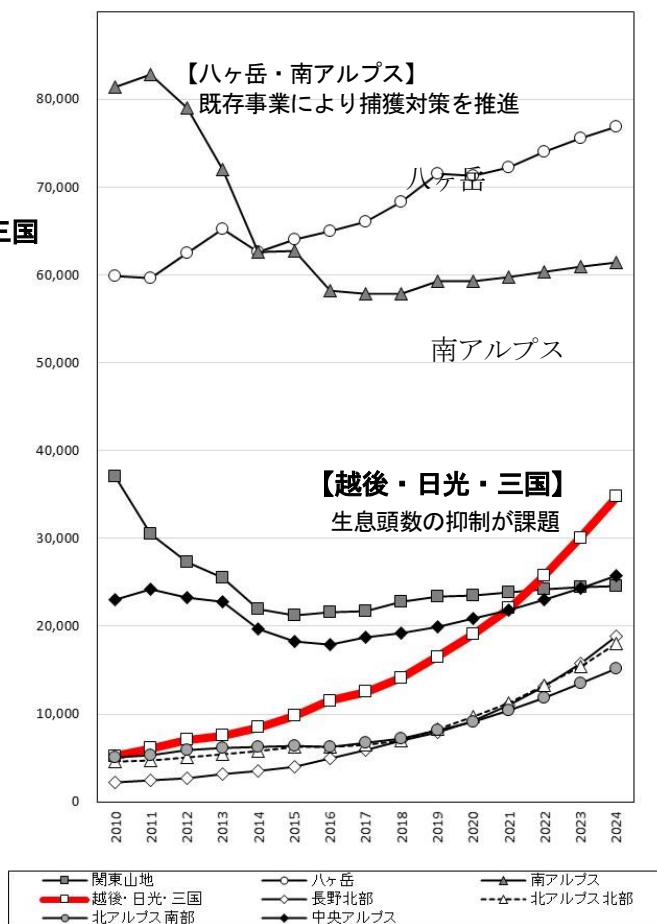
また、長野県に隣接する群馬県嬭恋村においては、ニホンジカによる農作物被害が近年著しく増加しているが、ニホンジカの生息域は他県にまたがっており、今後、長野県内においても被害が拡大することが懸念されている。

このため、ニホンジカ管理計画に基づき適正な生息密度を維持するとともに、被害額の低減に向け、群馬県との連携し長野・群馬県境を移動し農林業に被害を及ぼすニホンジカの効率的・効果的な捕獲方法の実証等を行う。

ニホンジカ管理ユニット



第5期ニホンジカ管理計画策定時（R2）の  
生息頭数推移予想



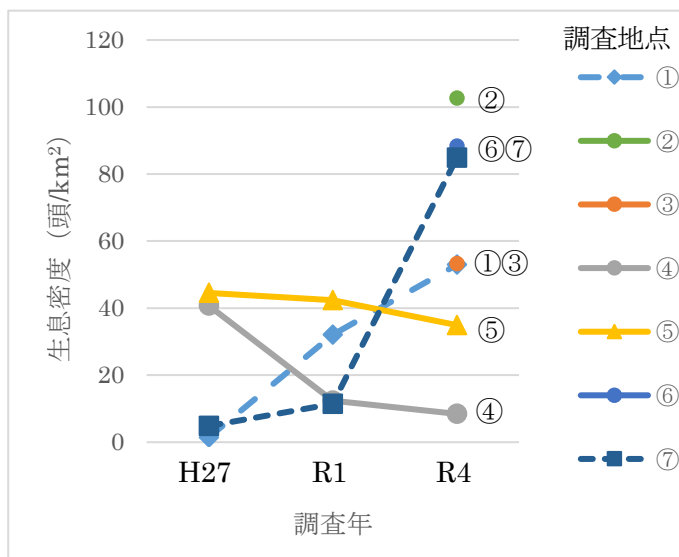


## 2 生息状況調査の結果（令和4年度）

### ○調査地点



### ○生息密度（頭/km<sup>2</sup>）の推移



### ○R4年度夏季（10月調査）と初冬（11月調査）の生息密度（頭/km<sup>2</sup>）の変化

調査地点⇒	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
10月	22	70	27	12	10	29	3
11月	53	103	53	8	35	88	85

調査地点①⑦で近年生息密度が増加しており、④を除く地点で冬季（出産期外）の生息密度が増加していることから、ニホンジカが越冬のため群馬県から移動してきていると考察される。

## 3 令和5年度事業計画

### （1）冬季における捕獲の実施

冬季に群馬県から長野県に移動するニホンジカ対策として、近年生息密度が上昇しており、かつ冬季の生息密度が高くなる地域（①～③及び⑦付近において捕獲を実施）

### （2）効率的な捕獲対策の実証

罾の見回りや錯誤捕獲による捕獲者の負担を考慮し、ICTを活用した効率的な捕獲対策を実証

- ・遠隔監視操作システムを有した囲い罾による誘引捕獲の実証
- ・錯誤捕獲対策機能を有したくくり罾による捕獲効果の実証

### （3）GPSによる移動調査

シカの季節移動状況等の把握

### （4）成果の市町村捕獲対策事業への展開

関係市町村に成果等を報告し、地域における捕獲活動強化に反映

